

死者の日

第一朗読 知恵 3・1-6、9

第二朗読 ローマ 8・31b-35、37-39

福音朗読 ヨハネ 6・37-40

2025.11.2 9:30 ミサ
カトリック高円寺教会
主任司祭 高木健次神父

今日は、わたしたちは死者の日のごミサをお捧げしています。

死者の日は、毎年 11 月 2 日です。11 月 1 日が諸聖人、すべての聖人 —— 神様の
みもとに達していると教会が信じるすべての聖人たちを記念し、そして、その次の日
の 11 月 2 日にはそれ以外の亡くなった方々たちのために祈る、そういう日になって
いますけども、今年はちょうど日曜日が 11 月 2 日にあたっていますので、普通の年
間の主日のミサに優先して、死者の日のごミサをお捧げしているということになりま
す。

また一方で、この高円寺教会では習慣として 11 月の第 1 日曜日には、それぞれが
繋がりがあった方々のお名前を掲示して、ごミサの中でその方々のことを思い起こし
ながらお祈りする、そういう習慣でもあります。今日はその第 1 日曜日がちょうど死
者の日にあたっているのです、ふさわしいというか、より典礼に適っているというこ
とです。

カトリック教会の教義によれば、わたしたちそれぞれが地上で暮らしてる間にイエ
ス様に出会い、そして、自分中心ではない、神様の御心を行うように変えられていく、
またこの地上の色々なもの —— それが悪いわけではないけれども —— 色々な良
いもの、しかし執着すれば神様との隔てになる、そういう自分中心のエゴイズムやこ
の世のものへの執着から解放されて神様のもとに達する歩みを歩んでいるわけです
けれども、多くの場合はその歩みは未完成で人生が終わる。残った部分は、本人は何
もすることができないけれども、神様ご自身の哀れみと、そして他の人の祈りによっ
て、完全な清めを経て、そして神様の身元に到達する。これは時間と空間っていう枠
組の中で表現せざるを得ない —— わたしたちのこの地上の生活を生きている人間
はすべてを時間と空間という枠組でしか捉えることができない —— のでそういう

表現になっていますけれども、じゃあ清めの期間は何百年だとか何十年だとか、そういう具体的な年数の話ではなくて、教会が言いたいのは、わたしたちは自分一人で救われる人はいないんだと、みんな —— もちろん神様ご自身の哀れみだし、他の人々のお世話になって、救われていく、そういうことですよね。

亡くなった方々のために祈るというのは、そういう神様が与えられた人と人々が助け合う、そういう中で、本当に救いへ繋がる人と人との繋がりを特に意識する大切な時であると言えます。また、特に、生前一人ひとりと繋がりのあった方々を思い起こしてその方のためにお祈りするというのは、あなたに会えて本当に良かったんだっていうことを改めて思い起こし、それを表明する、そういう意味もあると思うんです。それは、一人ひとりが出会えて、そして良かったな、そして死によって隔てられた後もその人のことを思い起こし祈るという心は、まさに神様ご自身から頂いている愛の心の表れであると言ってもいいと思うんです。

でも一方で、亡くなった方々のために祈ることはとても大切であると同時に、この地上で、今この時に一緒に生きている人間同士 —— たとえ直接出会ったり知らなかったとしてもですね —— 今一緒に生きている人間同士の中に、あなたに会えて本当に良かったって誰にも言ってもらえてないって感じている —— 実際は分かりませんが、でもこう感じている —— 人や、あるいはまだ生きているのに、亡くなった方のように誰もその声に耳を傾けない、あるいは何もすることができない者にされている、そういう困難の中にいる人々もいらっしゃるわけです。わたしたちが亡くなった人を思い、そしてそのために祈ろうとするその愛の心が、その関係だけに留まるならば、その心を与えてくださった神様の望みではないように思います。親しい方のために死を乗り越えて祈るっていうその愛の心が、今のともにこの時を生きている人に対しても広がっていく、そして人はどんな人も —— わたしたち自身も —— 他の人にお世話になり、そしてまた機会があるならば誰かを助けることができる、そういう繋がりの中に、神様ご自身が望まれその繋がりを良いものにするための愛の心を一人ひとりの中に送ってくださったんだと、そういう希望のうちに、亡くなった方のために祈ることが、他の人への関心を妨げるものになるのではなく、むしろそれが広がっていく、人と人との繋がりを本当に大切に思うきっかけになっていくならば、まさ

にそれがお互いの繋がりを与えてくださった神様の御心に沿うことになるんじゃないかなと思います。

今日わたしたちがそれぞれ、親しかった人たちを思い起こしながら、しかしともに生きる人々への思いをさらに育んでいくことができますように、一人ひとりが他者を大切に思う心を与えてくださった神様ご自身の御心がわたしたちの中により深くそしてより広く実現していくことを願いながら、このごミサをともに捧げたいと思います。

ミサ説教はカトリック高円寺教会ホームページの「ミサ説教」のページにも掲載されています。

PC <http://www.koenji-catholic.jp/cgi-bin/wiki/wiki.cgi>

携帯 <http://www.koenji-catholic.jp/mobile/>